



# 説林

女子は男子の所有なるか

洋々生

一般に我國の女子には、科學的、數學的思想の缺如せることは、おそらく何人といへども認むるところなるべし。之を女學校の學科課程に見れば、修身、國語、地理、歴史、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操等、其他隨意科として、外國語及諸種の手藝を加ふるものあり。たゞ之に由りて見むか、一見異論を押し餘地なきが如し、何となれば、課程表に於ては、一

方に文學的學科あり、一方には理科的學科あり、而して又、女子に必要なりとせらるゝ諸種の知識技能の加ふるものあればなり。然れども、現今の女子教育に付きて、詳に其實際を觀察する時は、いはゆる女子の學問なるものは、專文學的に偏し、又大に遊藝的に傾けるは事實なり。

蓋男子と女子とを問はず、所謂普通教育なるもの、趣旨は、人をして調和的の發達を遂げしめ、各自が天赋固有の本分、社會必須の職業を盡すに要する知識技能を得しむるにあり。而して、現今高等女學校及其以上の學校に入り來る所の女子たるや、小學時代よりして、既に女子として教育せられたること數年其他、社會の因習、家庭の風儀等に依りて、疾くに女子としての一種の偏倚傾向を有せることは疑ふべからず。然らば、之等の學校に於て、特に女子に授くる學科目等

の内容は、これら女子の既に有する偏倚傾向を正して圓滿の人たらしむるものならざるべからず。併も現今文學的に偏し、遊藝的に傾ける教育法は、この目的に沿はざるのみならず、反つて益其偏倚傾向を大ならしむるもの、抑また、女子の本分天職を盡すが爲の知能を與ふる點に於ても疑なきあたはざるなり。

吾人は、古代文學を以て、不用の死語として、其有する凡べての價値を滅却するは、もとより正當ならずとすると同時に、現今の如くに、女子なればとて、凡べての他の學科を輕視して、獨り、古語歌文を重せしめ、從つて、女子をして何をすて、も源語古今に通せざるべからずと誤想せしむるに至れるを難するものなり。吾人は、茶の湯、生花、音曲等の品性修養上に於ける効益を非認せんとするものにあらず、併も女子に求むる所の資品才能を殆んど、これらに限れる如き今日

の傾向に反對せざるを得ず。

要するに、女子教育に於て、尙未だ今日の實情を存する限は、「女子は男子の所有なり」との昔日の惡觀念は、其跡を斷たざるものなりといはざるを得ず。女子もとより、此思想を以て自ら甘んじ、教育者また、この思想を以て女子を教育せんとす。嘆すべきの至りなり。

黒田氏の兒童の道德的訓練及單念士の女子の職分は、筆者の出張或は病氣等の故を以て遂に本號に掲載するを得ず。次號に於て續くること一せり乞ふ諒せよ。